

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



観 光ではいけないところ、観光ではできないこと、スタディツアーの醍醐味ですね。

でも参加者にとって少しでも充実したツアーになるように、各団体ではいろんなノウハウや工夫をこらしています。今号はそんなスタディツアー成功のコツを一挙公開します!

左上:認定NPO法人アジア車いす交流センター (WAFA) タイツアー
 左下:(特活)キャンヘルプタイランド タイツアー
 右上:認定NPO法人アイキャン フィリピンツアー
 右下:アジア保健研修所(AHI) インドツアー
 すべて2018年2~3月にスタディツアーを実施予定の団体です。

CONTENTS

特集

スタディツアー 成功のコツ

NGOトーク

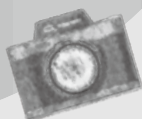
アジアの障がい児の自立のために

認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター
 事務局長 大河内 弘幸さん、職員 皆川 理恵さん、秋山 和豊さん、丹羽 俊策さん &
 認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 吉川 典子

特集

スタディツアー 成功のコツ

多くのNGOが行っているスタディツアー。
観光地を巡るパック旅行では味わえない外国の
生活の実態を体験できると参加者にも好評です。
成功のコツをNGOの担当者に伺いました。



毎年6月に名古屋NGOセンターが開催しているスタ
ディツアー合同説明会に出展するのも参加者を増やす
コツ。東海地域の大学に説明会のチラシを配るので、目
的を持った方が来場されます。



写真提供：南遊の会、認定NPO法人アイキャン、(一財)日本国際飢餓対策機構

書籍では以前「りこめん
ず」のページでもオススメし
た「実践的!スタディツアー
学」(120ページ、1,000円)
が役に立ちます。書店では
売っていないのでスタディ
ツアー研究会に直接申し込
んでください。



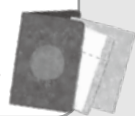
スタディツアー研究会のwebサイト
<https://starken1997.jimdo.com/>



旅行業法との関係

旅行業法により、参加者を募集して参加代金を収受する
場合は、非営利の場合でも観光庁の認可を受けた旅行業
者しか実施できない。そのため旅行業者に委託するNGO
も多いし、NGOのスタディツアーを多く受託している旅行
業者もある。

では、具体的に旅行業者に何をしてもらえるのだろうか。
いくつかの団体に聞いてみたところ、参加者集約や旅行代
金徴収などを依頼している事例が多いようだ。旅行業者の
ホームページなどでツアーの紹介をすることもある。旅行
業者に支払う手数料の分だけ参加費用が増えるのはデメ
リットだが、旅行業者を通してすることで、万一の時の
対応については安心できるのはメリットといえるだろう。



アイキャン

こんなツアーをしています!

路上の子どもたちやごみ処分場周辺地域の住民との交流を通して社会問題を学ぶ、4泊5日のスタディツアーを、2017年8月23日～27日に行いました。

学ぶことが多いスタディツアーの活動版(実践版)として、路上の子どもやパヤタスの人々との交流のほか、児童養護施設「子どもの家」でのボランティア活動を行う4泊5日のボランティアツアーを2017年9月6日～10日に行いました。

この他、高校や大学等の教育機関や、地方自治体から海外研修実施におけるご相談・ご依頼をいただき、目的に合わせたオーダーメイド研修の企画・実施も行っています。



スタッフの吉田文さん

ココに工夫!

- ・講演会を行う時に、チラシを配布して説明しています。
- ・インターン説明会、ボランティア入門講座、帰国報告会でもアピールしています。
- ・事務所訪問やインターン受け入れの際に、クチコミで広がります。
- ・事前に懇切丁寧な現地事情の説明を複数回にわたり行っています。
- ・海外旅行保険は主催者側が決めた保険に必ず入って頂きます。
(保険によっては病気・怪我の際に使える病院が限定されるため。しかし実際には病気はほとんどありません。)
- ・スタディツアー後に別の地域に旅行したい人があることや、日本全国から参加者があるので、マニラの空港で集合解散にしています。
- ・異なる年齢層の方がツアーに混在しているので、参加者からは良い評価を得られています。

(担当 内藤)

スタディツアーを長年続けている団体にはノウハウが蓄積されています。工夫しているところを教えてくださいました。



こんなツアーをしています!

なん ゆう 南遊の会

2017年8月18日から28日まで、放棄された塩田でマングローブの苗を植えたり、ホーチミンの観光などを楽しみました。

ベトナムの若者と日本の若者との交流を目的としていますが、ただ交流するというのではなく、両者が協働できることは何かと考え、マングローブの植林作業を取り入れています。

ベトナム側はホーチミンのホンバン国際大学の日本語学科の学生20名ほど、日本側は主に南山大学の学生と立正大学の学生が授業の一環として参加していますが、一般参加の学生、リピーターの学生や社会人の方も多く参加しています。

ココに工夫!

- ・名古屋NGOセンターの合同説明会でも呼びかけて数人の参加があります。
- ・毎回感想文集を作成して、参加者と関係者に配布しています。
- ・日本人の学生はベトナム人の学生達の貪欲に日本語学習にとりくむ姿勢に自分たちの学習態度を反省し、ベトナム人学生は、現地で行う討論会で日本人学生と環境問題について語り合ったり、現場で日本人学生がゴミを拾い集める姿に感化されています。
- ・スタッフ料金を適用して6～7人の役員や会員がスタッフとして同行しています。リピーター学生のうち数名は、学生スタッフとしてツアーの事前準備に加わったり、現地で様々な役割を担うことでよい経験になっています。

(担当 貝谷)



事前の説明会は どのようでしたか？

2回ありました。説明会及び準備会で特に2回目は事前勉強の時間がありました。予め宿題が出されていて、「宗教・女性・民族・経済特区」などについて分担し、それぞれ5分ほどで説明するというものです。そのためにネットなどで検索したので、現地では調べた知識と一致し役に立ちました。



参加人数は どのくらいですか？

参加者は17名、スタッフ3名（職員1名とインターン2名）でした。高校生や大学生、一般とここにいる私たちのように年齢もさまざまです。その中でAHI側の配慮によって、3つのグループに分けられました。団体行動用のグループで、各グループごとに小学校で出し物をしたり、班長や記録係、現地NGOへ質問係とそれぞれ交代で役割がありました。

ホームステイについて お聞かせください

2ヶ所でホームステイをしました。1軒目と2軒目で異なる地域に移動し、それぞれの現地NGOの方のアレンジによって宿泊しました。ホームステイ先の基準は、トイレがあるか、外国人を泊めても大丈夫そうかによって決まります。また途上国が初めての参加者なのか、参加者の年齢とステイ先の家族構成を考慮、あらかじめ提出していた要望（子どものいるお宅がいい、文化に触れたいなど）により、現地スタッフがマッチングします。

私が泊まったお宅はインド少数民族の一般家庭。お客様用にと一脚しかない椅子を出してくれたり、夜は涼しいところで寝なさいといった気遣いぶりでした。

AHI「生きる力をつかむ旅」 南インド スタディツアー



参加者4人の方にお話を伺いました。

左からアンジー、えっちゃん、ツッチー、ちゃぼ

現地でのスタッフ対応に ついてどうでしたか？

現地で英語は使えた方がよいが、買物等で必要な時はスタッフが対応してくれます。店で英語を使えない場合もあるので、その時は現地のNGOスタッフが対応、指差し会話帳などを使っても提示できます。食事はツアーですので、注文する必要ないですし。

割り振られたホームステイ先には巡回してくれました。手の周らない先には電話で対応。引率スタッフは現地のNGOスタッフと連携しているので、しっかりしたコネクションで信頼の元過ごせます。

現地で行った活動について

ホームステイ以外では、病院を訪れたり、経済特区を見に行ったり、スラム改善の活動家や女性権利の話を聞いたりしました。個々にはホームステイ先で、寺院や孤児院を案内してもらったりもしました。また、スラム街も見に行きました。普通踏み込めないような場所に現地で支援しているNGOが案内してくれるので、普通の旅行ではまず行けないような場所に、安全に行けるのは価値のある旅だと思いました。

10日間で盛りたくさんのスケジュール。そのつど宿舎や集会所に戻って話し合いの時間があり、グループごとに発表。現地で用意された出し物を見て、ご飯を食べてその後ふり返りがあると夜中近くなり、次の日朝8時集合だったりすると泣きそうな思いもしたそうですが、現地の人の温かで穏やかな生活にも直接触れられて濃い10日間となったことは間違いなさそうでした。

AHIのスタディツアーはこんな感じ。あなたの団体が行うスタディツアーの参考にしてはいかがでしょうか。

(担当 桜井)



加盟団体主催 スタディツアー情報!

ここでは、名古屋NGOセンターの加盟団体によるスタディツアーを紹介していきます。
スタディツアーの参加を検討している方は、ぜひこちらの情報を参考にしてみてください。



<2018年春 催行予定のスタディツアー情報はコチラ>

ICAN スタディツアー	
団体名	認定NPO法人 アイキャン(ICAN)
行き先	フィリピン
日程	(1)2018年2月28日～3月4日 (2)2018年3月21日～25日
内容	ICANと共に開発プロジェクトを行っているフィリピン最大のごみ処分場パヤスや、フェアトレード生産者を訪問。

WAFCA インドネシアスタディツアー	
団体名	認定NPO法人 アジア車いす交流センター(WAFCA)
行き先	インドネシア
日程	2018年3月3日～12日
内容	直接交流と体験をとおり異文化・障がい者理解を深める。参加者自らが仲間と思いを共有しながらカタチにしていくツアー。

タイ北部山岳少数民族の学生寮訪問ツアー	
団体名	NPO法人 キャンヘルプタイランド
行き先	タイ チェンマイ県
日程	2018年2月20日～2月26日
内容	「カサロンの家」(山岳少数民族の子どもたちの為の学生寮)の牛小屋と牛を支援する活動とおして、タイの山岳少数民族の現状を知る。

生きる力をつかむ旅inスリランカ	
団体名	公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)
行き先	スリランカ
日程	2018年3月20日～30日
内容	紅茶プランテーションや農村部などで現地のNGOの活動を見学、ホームステイを体験する。現地での触れ合いを通じて人とつながる力をつける。

<最近開催されたスタディツアー情報はコチラ>

ベトナムマングローブ植林スタディツアー	
団体名	南遊の会
行き先	ベトナム
日程	2017年8月18日～8月28日
内容	ベトナム人学生と寝食を共にしながら協働で植林活動を行う。植林活動だけではなく、エビ養殖池等の見学もあり。

あなたの常識がひっくり返る「宝探し」旅: サマーキャンプinボリビア	
団体名	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構(JIFH)
行き先	ボリビア
日程	2017年8月14日～8月26日
内容	「世界のこんなところに日本人」で紹介されたJIFH海外派遣スタッフが案内するボリビア体験スタディツアー。「わたし」と「ボリビア」を発見する、「宝探し」の旅。

マサイの第二夫人永松真紀さん同行 ケニアスタディツアー	
団体名	マゴソスクールを支える会
行き先	ケニア
日程	2018年2月3日～2月11日
内容	女性・子どものためのNGOや、捨てられた赤ちゃんを引き取るニューライフホームなどを訪問。人気のロッジにも宿泊できるちょっぴり贅沢なスタディツアー。



NGOトーク
理事が聞く

第52回

アジアの障がい児の
自立のために

認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター

事務局長 大河内 弘幸さん、職員 皆川 理恵さん、秋山 和豊さん、丹羽 俊策さん &
認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 吉川 典子車いすを贈るときに
気を付けていること**吉川** どのような活動をされているのでしょうか。**大河内** 1999年に(株)デンソーの社会貢献活動として設立されました。2016年度はタイに290台、インドネシアに95台、中国に40台の車いすを障がい児に贈りましたが、累計では約5,000台に達しています。教育を受けていないことで自立できない方を減らそうという思いから、大人ではなく子どもに贈っています。**吉川** とても多いですね。気を付けていることはありますか。**大河内** 日本から新品の車いすを贈るのではなく、現地で流通しているものを購入しています。きちんとその子どもさんのサイズや障がいの程度をアセスメント(診断)して、1台ずつフィッティングして加工してお渡ししてフォローアップするという、世界保健機関(WHO)のガイドラインに沿ったサービスを提供しています。そのためとても労力があるので寄贈する台数が限られてしまいますが、車いすをただ贈っても使わなければ何の意味もありません。**吉川** どの子どもに寄贈するのかは、どのようにして決めているのでしょうか。**秋山** タイの場合でお話しますと、タイには77の県があり、特殊教育センターという施設が1県に1つずつあります。その特殊教育センターから「この子はどうか」という情報をいただき、優先順位別に子どもさんにお会いして話を

聞くことにしています。2016年度はこのようにして35県に寄贈しました。

インドネシアの場合は、同じような活動をしているアメリカのNGOと活動エリアを分担していますが、タイと同じようにそれぞれの州の機関から情報を得ています。

この他にも、奨学金をお渡ししたり、障がい児がいる学校の施設のバリアフリー化工事を支援したり、地域住民や学校向けの障がい理解セミナーを開いたり、車いすの障がい児同士が交流を深める合宿プログラムなどの「心のバリアフリー化」にも取り組んでいます。

国内での活動も

大河内 一方でこの地域の障がい者の皆さまとの交流も進めています。この4月に刈谷市立特別支援学校が開校することから一緒に何かやりたいと思っています。既に安城の特別支援学校さん

と連携して、障がい者の絵画展にも取り組んでいます。

また、名古屋短期大学の寺田恭子先生から指導を受けて車いすダンスの支援もしています。健常者の方と車いすの方とペアになって楽しむ社交ダンスで、重度障がいの方でも健常者と一緒に動くことで健康になりますし、見られることを意識して自信がもてたりするようです。タイとインドネシアで取り組んでいます。これを刈谷でも広めたいと思います。

吉川 スポーツも支援しているそうですね。**皆川** 愛知万博では車いすバスケの支援、その後は中国との車いす卓球での交流を行ってきました。パラリンピックなどの効果もあり企業が直接多額の資金を支援することが多く、私たちの規模では難しくなりましたので、今年度はボッチャという、カーリングやビリヤードに似たスポーツで交流や障がい者スポーツ理解活動を行っています。革のボールを

車いすを1台ずつフィッティング

アジア車いす交流センターは昨年加盟していただいた団体。英語名Wheelchairs and Friendship Center of Asiaを略したWAFCA(ワフカ)の愛称でも親しまれています。刈谷市内にある事務局で、4人のスタッフに囲まれてお話をうかがいました。

左から大河内さん、丹羽さん、秋山さん、皆川さん、名古屋NGOセンター吉川理事



使って転がすので障がいの程度に関係なく楽しめますが、パラリンピックの種目にもあるように、ハイレベルになると戦略的に奥が深くて見ごたえがあります。

吉川 (ちょっと体験させていただいて)簡単なようで難しいですね!

皆川 秋は毎週のようにイベントがあるのですが、そこでもボッチャを体験してもらっています。知ってもらうのはもちろんですが、障がい者の方と交流するのも目的にしています。一緒に同じスポーツを楽しむことで壁が少しずつなくなっていきますね。

海外の活動をきちんと伝えたいと思いつつ、イベントはどこかで楽しさを作りたい。でもそうすると活動を伝えるのが難しくなります。毎日が試行錯誤ですね。

大河内 このように日本の活動を目に見えるようにしたいですね。今まではほとんど刈谷でしか活動していなかったのですが、もう少し広げないと私たちの活動

が埋もれてしまいます。私たちのことを知っていただき、イベントを手伝っていただけるボランティアの方を募集すると大勢の方が来てもらえる団体になりたいと思っています。

スタディツアー

吉川 今号のさんぐりあはスタディツアーを特集しています。

丹羽 車いすを寄贈しているのは海外なので、寄付していただいた皆様に現場を見て頂く機会がありません。そのためフレンドシップツアーを行っています。これは3泊4日で土日を含んだ行程なので、会社員の方にも参加していただけます。実際に車いすを使っている子どもたちに会ったり交流を深めていただいています。

これとは別に、インドネシアにて現在8泊10日のスタディツアーを企画しています。主に学生をターゲットにしたもの

で3月3日から12日までで参加費は14～16万円です。

吉川 何か特徴はありますか。

丹羽 車いすの組み立てを実際に体験したり、車いすを贈った障がい児と交流したり、ホームステイしたりと盛りだくさんです。このスタディツアーの内容はWAFCAでインターンをした学生が自分たちで企画したものをベースにしています。それを事前学習をしながら参加者自身で作上げていくのです。事前学習は、どういう動機で参加したのか、このスタディツアーで何をしたいのかを考えながら3～4回行う予定です。

吉川 ツアーが終わった後に、先輩から後輩へ口コミで伝わるのが楽しみです。

丹羽 大学では入学したときから就活の話が多く、市民活動への興味や関心が薄れてきているように感じます。私は今までNGOの皆さんから多くのことを教えて頂きました。今度は学生さんにNGOのことを伝えていきたいと思えます。

吉川 ありがとうございます。

(担当 丹羽輝明)



車いすダンス

団体概要

認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター

愛知県刈谷市司町1-2
ふれあいプラザゆうきそう内
TEL: 0566-23-5822
FAX: 0566-23-5827
HP: <http://wafca.jp/>
email: ZC8WAFCA@denso.co.jp

N た ま の い ま

No.38



ふじもり みな
Nたま10期生 藤森みな美さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2016年度までの14回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は204名。このうち、のべ116名の修了生がNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第38回はNたま10期生、藤森みな美さんにお話を伺いました。

NGOで働きたいと言い続けて

■どうしてNGO？

高校の時に「地雷の村で『寺子屋』づくり」（栗本英世著）を読んで国際協力に関心を持ち、大学生になったときに、途上国でボランティアをする方法を検索しました。ナイス（日本国際ワークキャンプセンター）（<http://www.nice1.gr.jp>）のサイトを見つけて、ベトナムの孤児院でのワークキャンプに応募しました。素晴らしい経験でしたが、同時にボランティアの限界も感じ、将来はNGOで仕事として国際協力に関わりたいという思いが固まりました。

■Nたま受講のきっかけは？

NGOで働きたくても、新卒採用はほとんどないと聞いていたので、3年間は社会人としての経験を積もうと、大卒後は学習塾の管理部門で仕事をしていました。働きながらボランティアを続け、周囲には「NGOで働きたい！」とよく言っていたとします。それを知ったボランティア仲間だったもんろうさんが、Nたまのことを教えて下さり、「これだ！」と思い社会人2年目の時に受講しました。

印象に残っているのは、AHIで行われた合宿で仲間と語り明かしたことです。他にも、貧困や格差の問題など、国際協力を行う上で必要な知識を教えてくださいました。高山のムラのミライ（当時ソムニード）まで

有志で訪問したりして、現場のことも学びました。同期とは今でも仲が良く、年に何度かは集まっています。

■インターンから就職へ

Nたまのあと、仕事を辞めて、アルバイトをしながら東京にあるJANIC（認定NPO法人国際協力NGOセンター）でインターンをしました。そこでひとつポストが空くことになり、運良く声をかけられ、就職できました。担当は企業連携で、NGOと企業の出会いの場を作ることが仕事でした。企業やNGOから相談を受ける側だったんですが、おかげで本当に多くのお会いがあり、いろんな立場の人からお話を聞く機会をいただきました。耳が肥えたというか、種々多様な知識が自然に耳に入ってくるのが、毎日刺激的でとても勉強になりました。

■JANICからテラ・ルネッサンスへ

結婚を機にJANICを退職し、京都に転居しました。ある時、東京のNGOで働く友人から、テラ・ルネッサンス※（地雷、小型武器、子ども兵、平和教育という課

題に対して取り組むNGO）での会議に代わりに出てほしいと言われて参加しました。すると、ちょうど職員募集をしていたんですね。これはチャンスだと思い、応募したところ、ありがたいことに採用いただきました。ファンドレイジング担当のため基本的には国内の仕事がメインですが、現場を見るために先日はウガンダに行ってきました。やはり、実際に支援をしている現場を見てくると、資金を集めることへのモチベーションも上がりますし、知ってもらいたいという気持ちも高まります。

NGOで働きたい！と言い続けてきたことで、今がある。自分の夢を声に出して伝えることは大事ですね。

（担当：貝谷）

※テラ・ルネッサンスURL：<https://www.terra-r.jp>



受益者と現地スタッフと 南スーダン難民居住区で

大阪で生まれ育ち、13年間南アジアで暮らした筆者は、2016年4月から名古屋市立大学(以下、名市大)で勤務している。赴任1年目、地域を知りたいという思いから、東海圏のNGO・市民活動に片っ端から顔を出した。東海圏のNGO活動は数・質の両面で充実しているが、学生(若年層)はそこに参入しているようにみえないというのが率直な感想だ。

名市大は、4000人弱の学生のうち40%が名古屋市を含む愛知県内の学生だ。三重・岐阜・静岡を入れた「東海圏」では実に80%に上る。私の所属する人文社会学部国際文化学科は、1学年70人程度で男女比が1:9。学生と接したこの1年半、「国際文化学科」なのに国際にはあまり目が向かない点や、非常に内向きな傾向を感じている。

近年は先進国でもテロ事件が起きるためか、海外行きを躊躇する学生も多い。親の強い反対や経済的要素も関係している。多くが公務員志望で市役所をめざす。企業への就職を考える者でさえ、「東海圏を出たくない」「海外赴任はしたくない」と

エッセイ
NGOの散歩道
第27回

**進行する「名古屋化」の中で
若者は担い手になれるか**

の観点で就職活動する者が少なくない。国内NGO活動であっても、関わっている・関わりたい学生は5%もないように感じる。上述した市民活動の現場では名市大生にはまず会わない。私見では、本気で開発途上国や社会問題と取り組みたいという「行動する」学生は1学年に1人いるかいないかだ。大学では各種、国際機関への訪問や留学・インターンへ送り出すプログラムがあるが、教員側が意図的に宣伝を打ったり、目をつけた学生に個別にプッシュしたりということをしないと、自分から応募とはなりにくい。

名市大の学生は授業態度もよく真面目である。知識欲は高いが、知ることに留まり、行動に結びつかないのが残念だ。学生は発達の途上なのだから、このアンバランスも過程と思わなくてはならないのかもしれない。真面目さと高い好奇心を活かして行動につなげてもらいたい。私もNGOの方々のように「信じて待つ」を実践しなくてはいけないのだろう。

名古屋市立大学准教授 榎木 美樹

**NGO
ノウハウ集**

第31回 **お客様の心をグッと掴む
POPのお話**

フェアトレードショップの方や就労支援施設の方はもちろん、繋がりのある生産者が想いを込めてつくった商品を販売している方も多いのではないのでしょうか。しかし、ほんとはすごく良いものなのに、いまひとつ反応がない……。でも、あまり話しかけると圧迫感がある気がする。

そんなとき、立ち止まるようなPOPが効果を発揮します。通りすがりのお客様はPOPが目当てではないので、じっくり読む方は少ない。伝えたいこともたくさんあると思いますが、「美味しいから売ってます！」など、気になるフレーズを最も大きく出すことが重要になります。吹き出しなどで出すのがおすすめです。本文では「なんで店長オススメなんですか？」などと疑問形で尋ね、その答えを書いたり、「この商品に隠された3つの秘密」と情報を打ち出したりすることで興味を引き立てることができます。

もっと知りたいと思った方は「すごはん」のブログ

気になる一言

目をはやくイラスト

一言で説明
提案
お客様目線の質問

商品情報
質問の答え

商品名や値段を
入れるなら小さめに

心見!

タイムリーなNGO情報が
ぎゅっと話まっています!

4回の会議と9ヶ月の取材の末に
できあがる会報誌「ごんぐりみ」。
会員になると毎月自宅にお届けします。

<http://www.sugohan.com/>を参考にするなど、手書きPOPの情報集めをおすすめします。

とはいえ、お客様の層はお店それぞれ。まずは描いてみる
ことが大切かもしれません。(担当:高橋)

なんごく りこめんず
NANGOC RECOMMENDS



このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめる」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org
 ※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。

BOOK はじめよう、お金の地産地消
 木村真樹 著

高橋里加子の
 オススメ

みなさんは自身が金融機関に預けたお金がどこに流れているかご存知ですか。大手銀行だけでなく、地域の銀行に預けたお金も大企業への出資や国債の購入などに多く使われている傾向にあります。一方で、地域には未知の課題に取り組むための資金を必要とする個人・団体が多く存在します。

少子高齢化が進み、税収が減り、地域の課題は地域で解決していかねばならない時代。著者の木村さんは必要なお金が行き届く仕組みをつくるために2つの団体を立ち上げました。NPOやコミュニティビジネスなどの地域課題を解決する事業を行う個人・団体に融資するNPOバンクと、融資よりも寄付が適した団体に拠出するコミュニティ財団です。また、ただ貸したり提供したりするだけでなく、融資先や助成先の事業内容や「成果」を積極的に公開し、関わる人が地域貢献していると実感を持てる仕組みづくりもしています。

本書で紹介されるこれらの団体を立ち上げた経緯や、気づいてしまった課題への取り組み、成果の「見える化」を可能にするボランティアの働きなどからは学びが多くあります。



1,600円+税
 英治出版 2017年

BOOK ムラの未来・ヒトの未来
 ー化石燃料文明の彼方へ
 中田豊一、和田信明 著

ムラのミライ(旧ソムニード)の現代表と元代表の共著。前著「途上国の人々との話し方ー国際協力カメラファシリテーションの手法」でお二人のファンになった方も多いのでは？

インドでは最近村が村でなくなろうとしているといえます。ムラの大工がいなくなり、代わりにプラスチックの椅子を買うようになったり、石油やプラスチックの化石燃料文明によって工業化が進んで便利になった反面、人間らしい生活ができなくなったりとか。しかし産業革命以前の生活には戻れないから、できるだけ節約してモノを買ったりエネルギーを使わない生活をしようと提案しています。この本を読んで生活を変えるきっかけにしてみてもどうでしょうか。



1,728円
 竹林館 2016年

EVENT ネパール大好きモモナイトin Nagoya

貝谷京子の
 オススメ

ネパール女性の自立支援団体“Women For Women Nepal”の代表アスタ トウラダールさんが、ネパール人のゲストスピーカーを招き、名古屋市内のネパール料理店で開催しているイベントです。ネパールの文化や風習、フェアトレードについてのお話を聞きながら「モモ」をいただきます。「モモ」は果物ではなく、簡単にいってしまえば蒸し餃子のようなものですが、カトマンドゥのネワール民族の商人がチベットで味わった餃子を自分たちの口に合うように工夫し、ネパール独特の味付けになっています。モモの他にネパールのアペタイザーとネパールのミルクティ(正式にはチャイではなくチーヤというそう)も出され、店による味比べができるのもこのイベントの楽しいところ。私は3回参加しましたが、毎回違ったお話と味が楽しめて、ネパールがとても身近になりました。開催予定はfacebookでチェックしてみて。



毎月1回 土曜日に開催
 参加費 2,000円
<https://www.facebook.com/WFWNepal/>
 メール: worldfordreamers@gmail.com
 電話: 090-6645-2325

そして、モモナイトで身近になったネパールに行きたくなったら、3月末に企画されている釈迦誕生地ルンビニを訪れるスタディツアーに申し込んでみては？

愛知・名古屋 戦争に関する資料館 (愛知県庁大津橋分室)

この建物は黒川巳喜氏(黒川紀章の父)らが設計して、愛知県信用組合連合会によって1933年に建設された、表現主義的な様式の建物である。1957年に愛知県農林会館から愛知県に寄付された。2015年7月に開館し、「戦争に関する資料館運営協議会」によって運営されている。



「設立の目的」は「戦争体験を次の世代に引き継ぎ、戦争の残した教訓や平和の大切さを県民が学ぶことにより、平和を希求する豊かな心を育み、平和な社会の発展に寄与すること」と案内に記載されている。

見学しての感想は、非常に小規模でもっと展示内容を充実させてもらいたいというものだ。三階建ての建物の一階の一部屋のみの展示である。建物全部を使用すればよいのと思った。日清戦争から始まる戦争の記録や遺品が展示されているが、もっと詳しく展示すべきだと感じた。せっかく日清戦争か

らの展示をしているのだから、日露戦争、第一次世界大戦、シベリア出兵、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦の説明を、地図等を使用してもっと詳しく展示すれば、小学生や中学生の校外活動での訪問にふさわしいものになるはずだ。

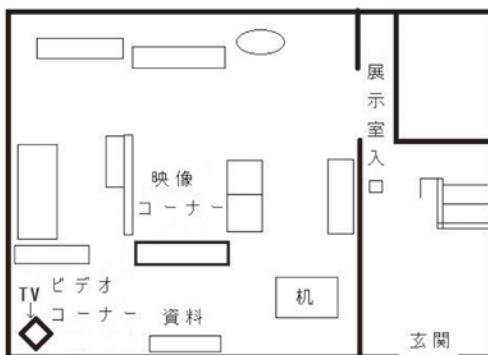
視点として愛知県民や名古屋市民がかかわった戦争は持ち続けてもよいが、

戦争の背景としての国際関係や当時の日本の政治情勢・経済情勢なども含めた展示をすれば、来館者も増えて、名古屋の観光の目玉のひとつともなる戦争博物館にできるのに惜しい。建物自体も歴史的な建造物として保存すべき価値があるので、内容を

もっと充実させてもらいたい。出兵した人々や銃後で被災した人々の記録映像は貴重な資料であり、ぜひ若い世代の人たちに見てもらいたい。戦争世代がどんどん亡くなって貴重な体験を取材する時間も残り少ない。できる限りの体験を収集して戦争博物館としての役割を果たしてほしい。そのためには愛知県や名古屋市のさらなる支援が不可欠である。

愛知県にはもう一つの戦争資料館がある。2007年に開館した「戦争と平和の資料館ピースあいち」だ。(連絡先: TEL/FAX 052-602-4222)今回、紹介した「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」の運営に当たっても、ピースあいちの方々が協力しているということである。

(担当 内藤)



所在地:名古屋市中区丸の内三丁目4番13号 TEL:052-957-3090 FAX:052-957-3091

ホームページ/<http://www.pref.aichi.jp/kenmin-soumu/chosakai/>

地下鉄名城線「市役所」駅から南へ徒歩5分 休館日:月・火、年末年始 入館料:無料 開館時間:10時~16時

運営

NGOセンターの未来を考える会を開きました！

11月24日(金)午後と夜、2回にわたり「名古屋NGOセンターの未来を考える会2017」を開きました。進行役は滝栄一さんが務めて下さいました。これは、年々財政状況が厳しくなる環境の中、助成金や補助金等の依存度を減らし、自らの財源をどう増やしていくか？また、そのためにNGOセンターの事業及びミッションや各人の関わり方をどう明確化していくかについて話し合うワークショップでした。すでに昨年9月にも同じような試みを行っていて、NGOセンター理事・事務局のみならず、委員会・インターン・Nたま修生など、関わりを持っている多くの方々との意見の共有・検討の場としています。今回は、午後と夜の部合わせて、25人の参加があり、活発な議論がなされました。事業の絞り込みのためのアンケートを加盟団体向けに行った後であり、その結果を含め、今後、どういった事業に重点を置くか？そして、ネットワーク組織として、今後どう動いたほうがよいのか？という話題で盛り上がりました。

現在、組織見直しのため「東海ろうきん」研修も同時進行で



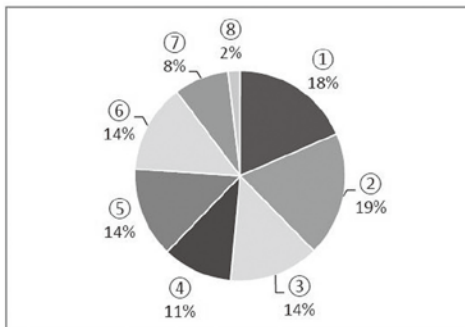
受けており、重点課題や方向性を見つめ直している段階でもあるため、その流れについても、各人から意見が出ていました。事業として、収益のあがるもの・重要喫緊の課題性を持つものを優先、ネット番組の放送(NGOの視点からの情報発信)、

NGOの事務局を受託等、多様な提案が出されました。今後、こういったご意見等も含み、再度アンケート結果を精査し、来年度以降の体制に反映させ、予算段階において黒字化を目指す、そしてそのためにも事業も絞り込みをし、より明確なミッションを導き、10・20年後を見据えた組織としていく所存です。そこに至るまでは、まだまだ紆余曲折があるかと思えます。こういったワークショップ等を再度開く可能性もありますので、またどうぞよろしく願いいたします。ご参加、ありがとうございました！

(報告：伊藤)

「事業の絞り込み」のための加盟団体アンケート 集計 (問1のみ抜粋)

問1 貴団体の困りごと(=組織を運営していく上での課題)について、以下の①～⑧までの課題に優先順位をつけ、番号をご記入下さい。



- ① 資金の調達
- ② 会員の獲得・継続
- ③ 情報収集・発信
- ④ 有給スタッフ発掘・育成
- ⑤ ボラ・インターン発掘・育成
- ⑥ 組織運営
- ⑦ 政策提言/アドボカシー
- ⑧ その他

回答数：39団体

※優先順位の番号を点数化して合計し、その結果を割合で表示しています。

活動報告カレンダー

2017年8月1日～10月31日

●ネットワーキング

- ・「企業と NGO の連携促進のための勉強会」第3回(9/13)開催。
- ・「ステファニ・レナト賞」受賞者決定(P13参照)
- ・横のつながりをつくる勉強会「未来へ ミヤンマー(ビルマ)の子どもたちと共に」開催(8/23)

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員)：【8月78件】【9月77件】【10月88件】
- ・外務省NGO相談員出張相談：「グローバル人材育成セミナー「国際協力分野で働こう！」(9/2)、「第24回地域と世界がつながるフォーラム in 三重県名張」(9/24)、「福井国際フェスティバル2017」(10/15)

●情報収集・発信

- ・会報「さんぐりあ」10月号発行(1,000部)・発送(10/28)

情報発信		8月	9月	10月
ホームページ	更新回数	2	2	5
	ビジット数	24,682	27,211	29,161
facebook (フォロワー数1,026人)	更新回数	19	4	15
メルマガ (登録数290人)	配信回数	5	11	14

ネットワーク

2017年度 ステファニ・レナト賞 受賞者決定

名古屋NGOセンターの創始者であるステファニ・レナト氏の意志を引き継ぐ人や活動を表彰する「ステファニ・レナト賞」の受賞者が以下の通り決定しました。

山田ロサリオさんは、南米のボリビア出身で、1989年に来日。1995年、阪神淡路大震災で被災した関西在住のボリビア人たちに請われて、関西ボリビア人協会を設立。24時間365日スペイン語での相談対応を中心に、在住外国人の生活課題の解決に邁進してきました。2010年、活動拠点を在日ボリビア人の多い三重県津市に移し、日本ボリビア人協会と改名、これまで4,000件ほど(年平均200件前後)の在日外国人の生活相談に対応し、各種行政書類の日本語・スペイン語翻訳、事件・事故対応の通訳、日本語教育事業等の個別支援、さらには外国人コミュニティの形成・維持に力を尽くしてられました。また、イベント等を通じて日本人への多文化共理解を促進してきました。どんな相談でも困っている人を見捨てず、一人一人に寄り添うという活動姿勢が評価されました。

また、本年より、小規模ながらも有意義な活動を続けている団体や、地域のNGOネットワークの発展に貢献している団体を表彰する「奨励賞」を新たに設置し、以下の2団体が受賞しました。



●本賞受賞者

山田 ロサリオ氏
(特定非営利活動法人日本ボリビア人協会 理事長)

●奨励賞受賞団体

「特定非営利活動法人DIFAR(ディファル)」「(三重県津市)」「ニカラグアの会」(愛知県名古屋市)

(報告:門田)

インターン紹介

西川侑里さん(写真左)と堀江愛里さん(写真中)が、昨年度に引き続き2018年3月までインターンを継続して下さっています。8月より小島綾華さんが加わり、にぎやかな事務所となりました。



NGOに触れ、学ぶ

国際協力やNGOの活動に関心があり、実践的に学びたい!と思い、インターンをさせていただいています。日々、多様な分野で実際に働く方々とお会いする機会に恵まれ、これまでなかった新たな発見や気づきをいただき、世界が広がったように感じています。どんな環境であっても皆が笑顔になれる社会をつくりたい、というのは私がずっと心に思い描いていることです。その目標のためにも、残りの期間を通して多くのことを吸収し、学び、「自分だからこそできること」を見つけたいです。

こじま あやか
(写真右) 小島 綾華さん(こじあやちゃん)

●政策提言

- ・NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会タスクフォース会議へ出席(8/30@東京)
- ・第2回NGO・JICA協議会へ出席(10/16、17@北海道)
- ・全国地域ネットワークNGO会合へ出席(10/17@北海道)
- ・中部地域NGO・JICA協議会(10/31)開催

●国際理解・開発教育

- ・「食」「環境」「グローバル化」についてみんなで考えよう」開催(10/24)

●人材・活動育成

- ・「NGOスタッフになりたい人ためのコミュニティ・カレッジ」実施(8/2、6、20、9/3、9-10、13、10/7-9、18、28)
- ・「3年先が見えないとお悩みのNGOのための研修」実施(9/2、10/8、28)

●運営

- ・理事会(9/30)
- ・常任理事会(8/22、9/5、19)
- ・職員会議(8/1、9/12、10/24)
- ・東海ろうきん「NPO育成助成」選考会(8/5)、スカイプ会議(9/5)

国際相互理解を考える会

当会はネパールの自然環境保護と弱者に対する就労の場の提供から内需拡大をめざした活動を始めて22年目に入りました。

当初カトマンドウの町中では村から家出てきたストリートチルドレンたちが歩道に横たわり深夜にはあどけない顔にうつろな目でシンナー袋を口に当て徘徊していました。その光景を日々追い、根本原因である貧困問題を解決することが先決と考えストリートチルドレン支援の会から現在の会に改名し、カトマンドウや観光地周辺を拠点に収入の道づくりを行ってきました。

しかし家族を残し幾つもの山を越えてやってくる人々から多くの課題に気付かされ村で家族と共に暮らす環境で収入が得られる手段を、と考えコーヒー栽培に辿り着きました。

栽培には直射日光を遮る植林が必須であり、そこに集まる野鳥の保護が自然環境保全に繋がります。

ネパールは労働人口の8割が農業従事者ですが山岳地帯で畑にする土地は僅かで年間を通して自分たちが食べる充分な量さえ収穫できません。生活物資の運搬も狭い山道は人力に頼らざるを得ない環境ですがコーヒー栽培は山岳地形の僅かな土地でも栽培可能な唯一の収入源です。山村で栽培収穫したコーヒー豆は都会へ運ばれ選別作業から出荷へと村と町の人々による連携作業で弱者の就業しやすい環境づくりとなっています。



コーヒーの実(コーヒーチェリー)の皮むき作業

(代表 小久保紀子)

国際相互理解を考える会

〒274-0825 千葉県船橋市前原西 6-1-7-401 TEL&FAX:047-489-5299
Email: manakamana@f.email.ne.jp
<http://fairtrademanakamana.web.fc2.com/>

ル・スリール・ジャポン(OJVS)

OJVSは「学びの場の環境向上、構築に対して、地域の主体性を尊重し、地域と連携し取組み、それに関わる全ての人々が笑顔になることを目指し西アフリカのブルキナファソで活動しています。

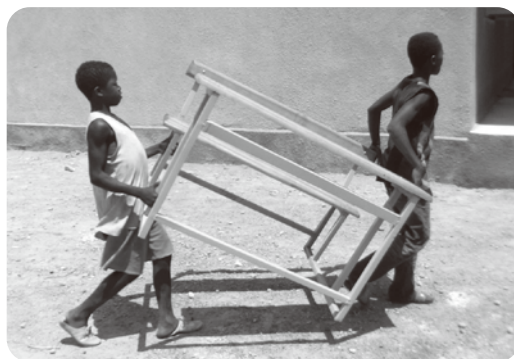
私たちは現地の状況を考慮しない思想ありきの活動でなく、実情に即した活動を行うために現地との連携を心がけています。この連携を強化することで活動根拠を明確にします。援助において、過去の反省、現在の潮流に精通することは重要ですが、地域により状況が異なるため無批判にその潮流に追従することを避けています。

今年は皆様からのご支援で風雨の影響を受けるわらぶき教室が多くある地域の小学校に教室1棟を建設できました。私はこれまでの活動経験から、無自覚に「住民が無償の労働力として、または資金を調達して教室建設に取り組むことは良いこと」だと考えていました。しかし、隣国への出稼ぎが多い

人口構成、経済圏までの不便なアクセス、行政の開発計画を前提に、行政、住民で構成される学校運営委員会と協議した上で業者委託での教室建設を選択しました。この選択が援助に対する考えの引出しを増やしてくれました。

地域の職人に仕事生まれ村で起こる経済効果、住民の建設への自発的貢献、職人の作業を間近で見学し説明を聞く子どもたちへの教育効果などプラスの効果が非常に多かったです。もち

ろん、子どもたちの学校生活がより安全になったことが一番の成果です。援助側の考えで活動できる場所を選ばず、支援の必要な場所でそこに適した方法を選択したことがよかったです。たくさんのご支援に感謝申し上げます。この姿勢を大切に一層精進して参りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



完成した教室に机の運び込みを手伝う子どもたち

(理事長 石田純哉)

特定非営利活動法人
ル・スリール・ジャポン

〒450-0001 愛知県名古屋市中村区那古1丁目44番17号 嶋田ビル302号
TEL:050-5809-8120 Email: info@ojvs.or.jp <http://ojvs.or.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/le.sourire.japon.ojvs/>

沙漠緑化ナゴヤ

当会は、中国内モンゴル自治区恩格貝の沙漠で、長年植樹活動をされている「日本沙漠緑化実践協会」を支援するため1997年に設立されました。早速翌年1998年から2000年まで同地に応援の協力隊を派遣し沙漠での植樹のノウハウを学びました。

次いで2001年から甘肅省永靖県劉家峽の黄土高原で地元の川北小学校と、2004年から青海省西寧市の興海路小学校と、2009年からは更に劉家峽の川南小学校と共同植樹を始めました。これで提携校は計3校となりました。

以降毎年この3ヶ所でナゴヤにちなんで758本の木を植えることを目標にして、中国の沙漠化進行地域の住民とともに植樹することにより、地球緑化に貢献しています。今年で20年目となった共同植樹は、地元の信頼を得る活動になり、今では当時の荒山が立派な森に変身しています。正に継続は力です。



2016.7.10 川南小学生と共同植樹

また、2006年からは共同植樹した3つの小学校の児童3名と先生1名を、毎年順番に名古屋に招くホームステイ事業も実施しています。

日本の文化や風習に触れ、日本の小学校と交流活動を行い、名古屋市や教育委員会等を訪問し日中友好の活動もしています。過去12年間で先生9人、児童28人、高校生1人を招待しました。

最後に、この植樹活動から生まれたエピソードの一つを紹介したいと思います。2001年に初めて共同植樹をした川北小学校の女の子が、日本への留学の夢断ちがたく大学で日本語を履修し、2015年とうとう愛知大学に入学しました。

中国で一緒に植樹活動をした子ども達やホームステイに来てくれた子ども達の中から、将来、様々な分野で、日中友好の架け橋に役立つ人材が育ってくれることを期待しています。

(広報副委員長 浜田正敏)

NPO 法人
沙漠緑化ナゴヤ

〒481-0045 北名古屋市中之郷北109 三興コロイド化学(株)内
Tel:0568-21-0012 HP <http://sabakuryokka.web.fc2.com/>

マゴソスクールを支える会

マゴソスクールを支える会はケニアの首都ナイロビにある東アフリカ最大のスラムと言われるキベラスラムに、キベラスラムで生まれ育ったリリアンさんが、1999年に20数名の孤児を長屋の一室に集めて始まった寺子屋マゴソスクールを支えるために、2015年10月に発足した団体です。本会はマゴソスクールの安定的な運営のために、サポーター(会員)を募っています。

マゴソスクール発足後知人である早川千晶さんが加わり二人三脚で発展を続け、様々な困難を乗り越えるたびに子どもたちの数が増え現在では600名を超える子どもたちが学んでいます。マゴソスクールでは毎日の食事にも事欠く孤児たちのために朝昼の給食を提供したり、東海岸のモンバサ近くに子どもの家・ジュンバ・ラ・ワトを設立し、親を亡くしたりして心を痛めている子どもたちの癒しと学びの場所を運営しています。またOBOG、保護者、近隣住民の職業訓練、雇用の創出にも寄与しています。



マゴソスクールの子どもたち

2008年には高校進学を希望する生徒に奨学金制度を立ち上げ、今までに84名の生徒がセカンダリースクールで学び、卒業生の中には奨学金を得て、あるいはアルバイトをしながら大学に進学する生徒も出ています。また2014年には障がい児のための特別学級をマゴソスクール内に設け、障がい児教育にも取り組んでいます。

早川千晶さんは毎年アフリカについてのトーク&ライブ公演を全国的に展開し、そこでマゴソ関係者手作りのアフリカグッズ販売を行っています。本会はその公演活動のサポートも行っています。またマゴソスクールとケニアを実感して頂くために、早川千晶さんが案内するスタディーツアーへの参加を勧奨しています。キベラスラムのスタディーツアーに興味のある方は当会までご連絡ください。早川さんにお取次ぎいたします。

(松岡 英輝)

マゴソスクールを
支える会

〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1 E-mail: info@magoso.jp HP <http://magoso.jp>
Facebook: www.facebook.com/magososupportersclub Twitter: [@magosojp](https://twitter.com/magosojp)

会員・寄付者、協力者の紹介

(順不同・敬称略)

2017年8月1日～10月31日

●賛助会員(個人)

【更新】後藤眞利、清水淳、水野洋計、藤井朋子、原田篤実、山崎眞由美、加藤美紅、守屋保美、桃井義博、森浩彰、筒井広治、石井りか、北奥順子、笠原総太郎、佐藤玲子、山口大輔、白井悠、滝栄一、矢内淳、尾崎寿光、株根秀之、廣井修平、坂本恵里

【新規会員】日沖修

●寄付者(物品なども含みます)

水谷洋子、平尾秀夫、藤井朋子、高橋里加子、戸村京子、小久保紀子、中島隆宏、伊藤幸慶、松浦史典

●グッドウ4,964円/アマゾン・ヤフー0円/楽天317ポイント

●事業チラシ発送(7月)・

116号(2017年10月号)会報の協力者

みわ、河崎卓也、赤尾哲郎、小林佳純、中島英登、五井泰弘、竹中修平、西野香緒里、馬場和信、横井春香、鈴木修、鬼頭恵美子、前田直洋、成戸雪季、加藤美紅

みなさまのご理解・ご協力にたいへん感謝申し上げます



会員からのメッセージ

●吉田英一～何とかならないものか。外国人児童語学対応員を経験した時、生じた疑問に対する答えをくれたのが「Nたま」だった。NGOは貧困、差別、平和などに関する問題を解決する指針及び手段となりうる。ICANがノーベル平和賞を受賞？偶然にもNたま時代、インターンとして参加したNGOと同名であった。



事務局だより

●もんろう～キンモクセイの季節には、窓をあけているだけで外に咲いているキンモクセイの香りが部屋中に包まれて幸せ気分になれます。この季節は、香りやごはんと、楽しみがたくさんなので毎年楽しみです。

●村山佳江～11月にエチオピアへ行き、ホープ・インターナショナル開発機構の事業地へ。山から湧き出る水をパイプでつなぎ村に届け、給水場を村が管理していました。私にとって貴重な経験となりました。

編集後記

●高橋里加子～就職先でPOPセミナーを受講させてもらった。本当に良いものをお客様に、かつ売り手が仕事を楽しく「三方よし」の販促術は私にとってもじっくりきた。多くの人が豊かに働けたらと思う。

●かいさん～冬になると日の出が遅くなるから、日の出ごろの朝の散歩を日課としている私は、寝坊ができてちょっとうれしい。空気がキリリと引き締まって、景色も冴えて気持ちいい。旅先での朝の散歩もいいものです。スタツア参加される方おためしあれ～。

JICAボランティア帰国報告会

1月27日(土) 12:30～18:30 【会場】JICA中部2階セミナールーム

2年間日本とは異なる環境で活動して感じたことは? 帰国したばかりのボランティア総勢約50名が活動報告を行います。1年に2回しかないイベント、ぜひ活動してきた人たちの想いを聞きに来てください。



入退場自由! 無料!

★なごや地球ひろば 展示・イベント情報★

企画展
HOME
一故郷を離れてー
2017. 12. 14(THU)

企画展連動イベント
参加費無料(一部有料)/要予約

1 映画上映・ワークショップ
いま、私たちが伝えたいこと
1月14日(日) 13:30-16:00

2 トークセッション
国を超え、同じ市民として生きる
1月20日(土) 13:30-16:00

3 ランクシェードづくり
難民キャンプと明かりのはなし
2月3日(土) 材料費: 1,000円
午前9時/10:30-12:30
午後9時/14:00-16:00

4 ワークショップ
絵本でつながる! 世界とわたし
2月24日(土)
午前9時/10:30-12:30
午後9時/14:00-16:00

パネル展示同時開催

UNHCR
難民アスリート写真展

5 ミニワークショップ
シリアの利益でくみボタンづくり
時間: 11:00 ~ 11:30 定員: 10名(6席)
シリアの伝統的な家庭たち

なごや地球ひろば

【開催時間】10:00～18:00
【休 日】月曜日・国民の祝日・年末年始
【位 所】愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7
【TEL】052-533-0121【FAX】052-564-3751
http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/
●名古屋駅から徒歩13分 ●ここしまわりから徒歩5分 ●米野駅から徒歩10分

カフェ貸切
受付中

少人数のセミナー、ワークショップ等の
イベントでご利用いただけます



美味しいケーキと飲物付き
20名/13,600円(税別)～
15時～18時の内2時間
プロジェクト、Wifiあり
※最大30名 ※詳しくは電話にて

名古屋駅太閤通口から徒歩5分
(新幹線改札側)

Glocal
Glocal Nagoya Hostel, Cafe and Bar

名古屋市中村区則武 1-21-3
11:00 ~ 23:00 (LOは22:00) 月曜定休
☎ 052-446-6694 (お電話でご予約承ります。)
グローバルカフェ

フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ フェアビーンズ なごや地球ひろば店



スタッフの北奥です。冬季限定のフェアトレードチョコが、今年もお店にやってきました。待ちきれない程楽しみにしていたチョコを、お店の隅に隠れてこっそり頬張る私。うーん、濃厚なカカオの味、程よい甘さ、滑らかな口どけ...ああ、美味しい!!
ハッ!お客様が見えたようです、急いでレジに戻らねば...いらっしやませ!ここで一句「隠しても 口の周りについてたよ」

名古屋駅から南へ徒歩10分 JICA中部1F なごや地球ひろば内
営業時間: 10:00～17:00(火～金)、10:00～17:30(土・日)
定休日: 月曜日・祝日 TEL: 052-583-6480
フェアビーンズコーヒーオンラインショップ <http://fairbeanscoffee.net/>

発行: 認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
編集責任者: 丹羽輝明
会報編集委員: 市川隆之、貝谷京子、桜井裕子、高橋里加子、内藤裕子、堀江愛里、村山佳江
協力者: 廣井修平
レイアウト: 久由紀枝
発行日: 2017年12月15日
印刷: 山本印刷有限会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
(認定NPO法人)
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX: 052-228-8109 URL: <http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表): info@nangoc.org